

## ■ 編集だより

### 編集後記

精神神経学会による英文機関誌刊行の準備が最終段階に入っている。新しい英文機関誌に掲載する原稿は既に2号分が集まっており、来年(2008)2月には新装丁の英文誌 *Psychiatry and Clinical Neurosciences* Vol. 62, No. 1 が刊行される運びである。

ここに到達するまでには紆余曲折があった。精神神経誌編集委員会において英文機関誌の必要性が議論され、理事会での審議を経て2005年度総会で英文学会誌刊行の決議がなされた。情報のグローバル化と我が国の精神医学レベル向上のためには英文誌を持つことが必要であり、日本精神神経学会の国際化にも寄与するところが大きいと考えられたからである。そして、アジアの中心的な精神医学雑誌を目指して、*American Journal of Psychiatry* や *British Journal of Psychiatry* と肩を並べるような質の高い英文誌を発刊しようとの熱い息吹の中で、編集方針、編集委員、雑誌名、出版社などが次々と決定されていった。

そのような中で現行の *Psychiatry and Clinical Neurosciences* (PCN) との統合の話が持ち上がった。ご承知のようにPCNはフォリア刊行会により発行されている一般精神医学英文誌であるが、もともと精神神経学会とは密接な関係にあった。

PCN(当時の誌名は *Folia Psychiatrica et Neurologica Japonica*)は精神神経学会の英文機関誌として刊行されていた時期もあったが、諸般の事情により精神神経学会が英文誌刊行を断念せざるを得なくなった。我が国唯一の英文誌の灯を絶やすべきではないと考えられた先輩の強い意思により、独立したフォリア刊行会により継続されてきたものである。そのような高い志は、現在まで本多裕フォリア刊行会会長、高橋三郎編集長を初めとするフォリア刊行会の諸先生に引き継がれてきたものであるが、この度、ようやくこのような意図と努力とが実を結び、本来のあるべき姿に戻ったと見ることができよう。

精神神経学会機関誌として再出発するPCNには大きな期待と責務が課せられている。なんといても雑誌の高い質を維持し更に発展させねばならないことはいうまでもない。そして、我が国の精神医学の水準を向上させ、国際化に対応することが求められている。

そのような話し合いの中で、編集方針、編集委員、海外編集委員、投稿規定について議論され、新しいデザインと出版社とが決定されて、理事会でも承認されたところである。これからの精神医学を担う若い学徒にも広く活用してもらおうべく、研修指定施設には備えるべき雑誌の一つとなるであろう。

学会英文誌の刊行とともに和文誌の位置づけも影響を受けるのではないだろうか。現在、精神神経誌は、投稿論文(原著、臨床報告、総説、症例報告、速報、討論、資料、地方会報告、会員の声)の他に、総会の記録、学会活動報告、さらに編集委員会企画(精神医学の潮流)、専門医制度委員会企画などに紙面が使用されている。一時期よりも、学術的な内容を多くするように努めてきたが、おそらく、今後の精神神経誌にはさらに教育的な内容が求められるようになるのではないだろうか。精神神経学会が責任を持って若い精神科医師を育て上げるためには、今まで以上に活用されていいのではないだろうか。症例報告はもっと充実されていい。われわれが経験する貴重な症例の宝庫としての役割はこれからも重要視されるであろう。さらに会員の声をもっと活用してほしい。400字10枚以内の制限ではあるが、論文に対するコメント、日常の診療活動におけるヒント、広く学会員へ知っていただきたい学術情報などを広く出版していきたいと思っている。